

幸福度全国No.1のまちづくりに

仙北市について

仙北市は、秋田県の東部中央に位置し、岩手県と隣接しています。東側は奥羽山脈が走り、東には秋田駒ヶ岳が、北には八幡平があります。西側は出羽山地が延び、南は秋田の米どころの仙北平野へと開けています。市の面積

は、1093・56km²と秋田県では3番目の広さとなっており、約80%以上が森林です。

本市は、山と湖と温泉、そして歴史文化のまちです。東北有数の観光地でもあり、毎分9000ℓの温泉湧出量とPH1・2の強酸性のどちらも日本一を誇る玉川温泉や、鶴の湯、妙乃湯、黒湯、蟹場、



田沢湖



乳頭温泉

大釜、孫六、休暇村のある乳頭温泉郷は、旅行雑誌のランキングにて5年連続「憧れの温泉郷」に選ばれました。田沢湖は423・4mの水深を誇り、日本一深い神秘の湖と呼ばれています。江戸時代に栄えた城下町で「みちのくの



角館のシダレザクラ

小京都」ともいわれる「角館」は、侍の住居の武家屋敷がそのまま残っており、国の重要伝統的建造物群保存地区として認定を受けています。また、文化人も多数輩出しています。例えば、株式会社新潮社を創設した佐藤義亮や、『解体新書』の挿絵を描いた秋田蘭画えの小田野直武、近代日本画家であ

仙北市が抱える課題

る平福穂庵、平福百穂親子などが挙げられます。

本市においては、急激な少子高齢化、人口減少というこれからの地域の存続に関わる大きな課題に直面しています。人口減少や経済活動の縮小により税収は落ち込み、今後そのような状況下で行政運営を行う中で老朽化した公共施設の修繕、解体などで市の財政をさらに逼迫ひっぴくさせることとなります。多岐にわたる課題に正面から向き合い、市政理念である「幸福度全国No.1の実現に向け、市民の皆さまと共に将来につながる解決策を一つ一つ模索し、次の世代へと地域を継承していくための施策を推進しています。

行財政改革の断行

令和3年に市長就任以来、206事業のうち146事業の見直しを行い、より成果・効果が見える行財政マネジメントの在り方を模索し

ました。

総合計画に設定している施策ごとの経営目標達成指標（KGI）および重要業績評価指標（KPI）について、事務事業評価・施策評価を経た後、達成状況を仙北市総合政策審議会で評価・検証を行うほか、市民意識調査の実施により、計画の推進に当たって市民の皆さまが感じていることや関心のある事柄を把握し、計画推進および進捗管理に役立てるなど、実施内容を改善するしくみ（PDCAサイクル）を確立し、補助金・助成金の在り方の検討を進めています。

さらに、PDCAサイクルによる3カ年単位の中期的な見直しのほか、短期的な見直しを行うために事業所管課においてOODA（ウーダ）ループにも取り組み、効果的かつ効率的な行財政運営を実施しています。

医療MaaS車両の導入と子育て支援の拡充

デジタル田園都市国家構想交付金を活用し、高齢者などの交通弱者でも安心して医療を受けられるように医療MaaS車両「せんぼく医信電診丸」を秋田県で初めて

導入しました。交通弱者が一人で病院に行くことが困難になっている状況は、過疎地域の非常に切実な問題です。であれば、病院の方から患者さんのところへ向かう体制をつくろうと、診療所の設備を有した車両を走らせています。車両には看護師が乗っており、患者さんの対応に当たり、医師は診療所からオンラインで診察を行っています。

また、本市は子育て支援として、第1子からの所得制限なしで全額助成することによる実質的な保育料完全無償化、副食費の全額助成による実質無償化、市内教育・保育施設でこれまで3歳児以上が持参していた米飯の無償提



医療MaaS

供、使用済みオムツ持ち帰り廃止、1、2歳誕生月の育児支援金支給を実施し、子育て世帯の支援を強化しています。

おわりに

令和6年1月の市広報に、「逃げない、隠さない、嘘をつかない」という三つの誓いを書かせていただきました。この言葉は、私が尊敬している中貝宗治前豊岡市長が

おっしゃったことからお借りしました。豊岡市が豪雨災害に直面した際に、中貝前市長が職員に対して訓示した言葉だと聞いています。この言葉を表に出すことは自分自身を追い込むことになるのですが、それくらいの覚悟を持って市政に取り組みよう、心がけています。負の遺産を子どもたちに残さないよう、「幸福度全国No.1のまちづくり」をさらに推進します。

プロフィール

- ◆ 面積 1093・56 km²
- ◆ 人口 2万3038人
- ◆ 世帯数 1万310世帯

〔将来都市像〕幸福度全国No.1のまち
〔まちの特徴〕日本一深い田沢湖や「みちのくの小京都」角館の武家屋敷、多彩な名湯・秘湯など自然と文化資源が魅力のまち

〔市町村合併〕平成17年9月20日、田沢湖町、角館町、西木村の2町1村が合併



仙北市長
田口知明



〔特産品〕西明寺栗、田沢ながいも、仙北米、地ビール、樺細工、イタヤ細工、白岩焼
〔観光〕田沢湖、角館の武家屋敷、シダレザクラ、桧木内川堤の桜並木、乳頭温泉郷、玉川温泉
〔イベント〕田沢湖マラソン、角館のお祭り、上桧木内の紙風船上げ、角館の桜まつり、田沢湖高原雪まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

豊かな自然と伝統を守り、未来へ続く「MY CITY東金」を目指して

はじめに

東金市は、東京都心まで約60km、

千葉県のほぼ中央部に位置しています。温暖な気候に恵まれ、平野部には田園地帯が、丘陵地は山武杉の森林が広がっています。

徳川家康の鷹狩りのために「御成街道」が造られたことにより、宿場町と近隣農産物が集まる問屋町が形成されました。以降、東金は九十九里地域の物流の拠点、中核都市として発展してきました。

現在では、国道126号と千葉東金道路、圏央道（首都圏中央連絡自動車道）をつなぐ交通の要衝となっています。



市街地



八鶴湖

とうがね

「MY CITY東金」まちへの思いを未来へ

本市は、昭和29年4月1日に誕生し、本年4月に節目となる市制施行70周年を迎えました。市制施行当時に約3万5000人だった人口は現在約5万7000人、人々の暮らしもまちの姿も大きく変わっています。

現在、第4次総合計画（令和3～12年）に基づき「子育て支援の充実」「学校教育の充実と人材育成の推進」「新たな企業誘致の推進」「農業経営の強化・安定による農林業の発展」「公共交通ネットワークの再編」を経営重点戦略とし、将来像として掲げた「豊かな自然と伝統を守り 未来へ続くMY CITY東金」の実現に向けて、市民の皆さまと共に歩みを進

めています。

未来を託す若者たち・子どもたちが誇れるまち、また、本市に関わる全ての人が愛着を持ち「MY CITY（私のまち）」と言いたくなる東金市の実現を目指し、全力で取り組んでまいります。

新たな産業用地の創出

まちの発展に向けては、産業の振興に係る取り組みは欠くことのできないものであり、市内における産業活動の発展が雇用を生み、それがにぎわいにつながるものと考えております。

現在、新たな産業用地の創出に向けて、千葉県をはじめとし



千葉東テクノグリーンパーク

た関係団体の支援の下、市内滝沢地区（圏央道が通る山間地域）における産業用地整備事業の実現に向けた取り組みを進めています。事業計画区域は約28ha、至近の国道からのアクセス道路を併せて整備する計画としています。今後の具体的な取り組みの推進に当たり、豊富な経験やノウハウを有する事業者を事業化検討パートナーとして選定し、本年9月に覚書を締結しました。今後、地権者をはじめとした関係者の皆さまへの説明、対話を重ねながら取り組みを進めてまいります。

また、圏央道の全線開通や成田空港第3滑走路の整備・機能強化の状況などを見据え、人や物流の変化を的確に受け止める必要があると考えております。

JR東金駅東口改札の設置を契機としたまちづくり

JR東金駅東口改札の設置につきましては、駅の利便性の向上に関し、これまで市民の皆さまから多くの要望を頂くなど、長年の課題として捉えていました。そこで、鉄道の持続性やまちづくりの持続的な推進に当たり、JR東日本千葉支社と包括連携協定を締結し、現在、令和8年春の東口改札の設置に向けた取り組みを進めており、改札設置とともに人流の変化を踏まえた待合所などの設置や駅前ロータリーの安全対策などに係る設計を行っています。

また、改札設置を契機とした駅東口のまちづくりについても、関係部署による検討体制を整えたと



産業交流拠点施設「道の駅 みのりの郷東金」



東金・九十九里波乗りハーフマラソン

ころです。今後、民間との連携も視野に入れ、ロータリー周辺の地権者の皆さまや商工会議所などの関係団体と意見交換を行いながら、利便性の向上やまちのにぎわいの創出に向けたまちづくりの取り組みを推進してまいります。

交流人口拡大の取り組み

産業交流拠点施設「みのりの郷東金」は、平成26年4月にオープンし、翌年11月に県内27番目の道の駅となりました。本年度10周年を迎え、年々来場者が増加するなど、にぎわいを創出しています。直売所の「東金マルシェ」では、朝どれ野菜や彩り豊かな特産品のイチゴ、ブドウなど季節ごとの果物を豊富に取りそろえています。敷地内の緑花木市場では、四季折々の植木、盆栽や花の販売とともに庭園の紹介、季節に合わせたイベントを開催しています。「カフェ&リストランテとっちーノ」では地元食材を使用したメニューの提供を行っています。このような事業展開と併せて、併設の加工場では米粉などを活用したオリジナル商品の開発を行い、6次産業の拠点としての役割も担っています。今後

もさまざまな事業を展開し、さらなる交流人口の拡大、地域経済の活性化を図ります。

令和5年に初開催となりました「東金・九十九里波乗りハーフマラソン」は、九十九里町と共催で実施しており、令和7年2月の開催で3回目を迎えます。普段は走ることでできない有料道路を快走し、海岸沿いの波乗り道路からは雄大な太平洋の絶景を堪能できるコースとなっています。ハーフマ

プロフィール

- ◆ 面積 89・12 km²
- ◆ 人口 5万6660人
- ◆ 世帯数 2万8004世帯

〔将来都市像〕豊かな自然と伝統を守り 未来へ続くMY CITY東金

〔まちの特徴〕豊かな自然を残しつつ、道路交通の要衝として、都心までのアクセス、羽田・成田という世界にもアークセスが良好な、都市機能が集積したまち



東金市長 鹿間陸郎



〔特産品〕米、植木、果物（ブドウ、イチゴ、プラム、メロン）、オリーブ、わけねぎ（極楽ねぎ）

〔観光〕八鶴湖、雄蛇ヶ池、山王台公園、桜、道の駅 みのりの郷東金

〔イベント〕ヤツサ東金祭、東金桜まつり、東金市産業祭、東金・九十九里波乗りハーフマラソン

ランソンの部、ペア3kmの部に全国から3000人を超えるランナーが集う、冬の風物詩となっています。スタッフの最高のおもてなし、真心を込めた「あいさつと応援」、充実の「給食サービス」、プロのトレーナーによる「ランナーケアサービス」などを提供します。今後「ランナーやご来場の皆さまにお楽しみいただくとともに、わがまちの誇りあるイベントとして盛り上げてまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「土佐のまほろば」南国市

南国市は、高知県の中央部に位置し、古くから稲作が盛んな豊かな平野が広がっています。律令時代には国府が置かれ、土佐の政治経済の中心地として栄え、歌人として有名な紀貫之が国司として赴任、帰京の際に心情をつづったのがかの有名な『土佐日記』。戦国時代には、長宗我部元親が岡豊城を拠点として土佐を平定するなど、歴史豊かな「土佐のまほろば」として、今もいにし

えのたたずまいを感じさせます。高知県の空の玄関、高知龍馬空港を有し、高知自動車道のIC、JR、路面電車のほか、高知新港にも隣接、陸海空の交通の要衝でもあります。

令和5年5月から、高知龍馬空

港と台湾桃園国際空港を結ぶ定期チャーター便の就航が始まり、周遊ルートの一つとして、本市の西島園芸団地へも足を運んでくれています。メロンやマンゴー、イチゴなど、手塩にかけた果物はとても好評です。台湾からのチャーター便は、令和7年3月まで延長も決まりましたので、引き続き本市での観光や買い物を楽しんでいただけたらと期待しています。

近い将来必ず起きる南海トラフ地震の被害から市民を守るための防災にも力を入れており、海岸に

は15基の津波避難タワーを、東日本大震災後いち早く建設しました。子どもたちが未来を感じられ、若者が住み続けたいと思い、高齢者が経験を生かして地域に関わる、市民が生活する喜びを実感できるまちづくりを進めています。

中心市街地再生への取り組み

本市の中心市街地はここ数年で大きく変貌を遂げようとしています。集客やにぎわい創出の核となる、南国市ものづくりサポートセンター（海洋堂 Space Factory なんこく）の開館をはじめ、市民の文化活動やコミュニティ活動の拠点施設である地域交流センター（MIARE）が完成し地域住民相互の交流も広がっています。併せて、中心市街地を東西南北に走る

都市計画道路も整備中であり、「シンボルロード」と銘打って整備が進んでいるJR後免駅前（ごめん）から南へ向けての南国駅前線について



シンボルロードパス図



南国市ものづくりサポートセンター



高台から南国市内を望む



八京の一本桜



沿道広場パース図

は本年度末の完成を予定しています。また、そのシンボルロードと後免町商店街（やなせたかしロード）との交差部分にある沿道広場には、子どもたちに喜んでもらえるような噴水施設などを備えるとともに、本市の名誉市民であるやなせたかしさんの世界観を感じ取っていただけるような工夫を盛り込む予定です。さらに、シンボルロードの沿道には令和8年度オープン予定の新図書館を建設中であり、各世代にわたる多くの市民の方々にご利用いただけることを期待しています。

これら都市基盤施設の整備によりまちの魅力や住みやすさが向上してきたことで、現在、中心市街地周辺の人口は増加傾向にあり、コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりに向けた取り組みの成果が徐々に表れてきていると言え

ます。今後は、拠点となる各施設間を公共交通でつなぐ取り組みや、官民連携による居心地がよく歩いて楽しいまちなかづくりの取り組みを一層推進してまいります。

デマンドタクシーの実証運行を開始

課題となっている地域の足を守るため、本年10月から、市中心部と空港を結ぶ乗り合いタクシー、および市南部地域と大型量販店や公共施設などを結ぶデマンドタクシーの実証運行が開始されました。運行日時などが限定された試験的な運行ではありますが、交通空白地帯の解消につなげるためにも、本格運行に向けた検討を進めてまいります。

2025年春のNHK連続テレビ小説『あんばん』への期待と準備

やなせたかしさんと妻・暢^{のぶ}さんをモデルにしたドラマの制作が決まりました。

本市の後免町に、伯父が経営する柳瀬医院があり、やなせたかしさんは小学校2年生から18歳までそこで過ごしました。幼少時代を

過ごした香美市とともに「僕の故郷のまち」と呼んでくださっています。やなせさんが住んでいた「後免」地区に対してはとも思入れがあり、出身小学校や、地元商店街、後免駅周辺には、やなせさんから頂いたキャラクターやアイデアが今も息づいています。柳瀬医院跡地を整備した「やなせたかし・ごめん駅前公園」や後免町商店街の「やなせたかしロード」にも、改めて多くの方に来ていた

プロフィール

- ◆ 面積 125.30 km²
- ◆ 人口 4万5968人
- ◆ 世帯数 2万2704世帯

〔将来都市像〕 緑とまち 笑顔あふれる 南国市

〔まちの特徴〕 高知県の中央部にあり古代の遺跡が多数残る。高知龍馬空港や各種鉄道、高速道路など交通の要衝

〔特産品〕 超早場米、フルーツトマト、



南国市長
平山耕三

だけるのではないかと期待しています。連続テレビ小説『あんばん』の放送に向け、物部川エリアでの観光博覧会「ものべがわエリア観光博 ものべすと」が開催されることが決定しています。今後、市内の観光関連事業者や団体などとの連携に加え、高知県や香美市、香南市、そして高知市とも連携を図りながら、観光地域づくりを進めてまいります。

ナス、シヨウガ、シントウ、ピーマン、四方竹、土佐打刃物など

〔観光〕 紀貫之邸跡、西島園芸団地、南国市ものづくりサポーターセンター（海洋堂 Space Factory なんこく）、国分寺、桑の川の鳥居杉など

〔イベント〕 土佐のまほろば祭り、南国市土曜市、ごめんの軽トラ市



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。